



ダンブラ石窟寺院の仏像

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆
小林国二・小林善秋・高橋翠・室賀清輝
高橋利春・加瀬由紀子・屋代健
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信
後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

迎春

今年も宜しくお願ひ申し上げます 翠巖弘

梁の武帝蕭衍の長子、蕭統が先秦から梁になるまでの作品を選録、編集された『文選』の中に陸府が「長歌行」の中に

年中迅勁失 時來亮急絃
〔年の住くのは勁失より迅く時の來たるは亮に急絃のごとし〕

〔年の去りゆくのは強い弓から放った矢よりも早く、時の流れるのは、まことに速い調子で弾かれる琴の音のようである〕と歌われております。私も還暦を過ぎてからは一年が短く、早く過ぎさるよう感じられ、あつという間に数え六十八歳になりました。

道元禪師の和歌に

〔閑に 過す月日は 多けれど 道をもとむる 時ぞすくなき〕

と、歌われたものがあります。私自身のことを歌われたようで、反省すること大です

が、ついでに安きに流されて今日までできました。

臨濟義玄の『臨濟録』の示衆にも、「光陰は、空しく過すべからず」と、臨濟が自らの修行過程のときを語る部分において、この句が示されております。私も後、二年で古希を迎えます。今年こそは悔いのないように！ と思うのですが、

皆様、今年も坐禅会などに参加していただき、一緒に道をもとめる時を過ごしてみませんか。昨年十一月中旬、安善寺の団参でスリランカに行つて来ました。百聞は一見に如かず」と言われておりますが、實際現地の人々の生活を垣間見させていたたり、日本語の上手な女性ガイドのチャタンさんの説明などを聞かせてもらい、深く考えさせられることが多々ありました。日本人が豊かさと引き

替えに失いつつあるもの、普段の生活から遠ざけたことながら、スリランカでは当たり前前の如く息づいている。国民の70%近くが仏教徒であり、信心深く、仏教が生活の中に溶け込んでおり、日本の路傍のお地藏様のように、多く場所に仏像が安置されておられ、地域の人々の心の拠り所になっている様子。子供達は各家庭でも学校でも仏教を学び、子供達が悪いことをして少年院などに世話になるなんて考えられないとの説明。経済的には決して豊かではないが、家族、親戚、近所の人々との絆が強く、日本人が失いつつある心の豊かさを強く感じさせられました。ガイドのチャタンさんの「スリランカは、お釈迦様、佛教の御陰で国民皆が幸福です」の言葉に感銘。荷物にならないお土産を沢山いただいでまいりました。

【日々精進(二十三)】

遠い春を待ち望みつつ、冬を過ぎす 近藤真弘

あけましておめでとうございます。本年もよろしく
お願い申し上げます。

本山での二年間ではお正月は忙しく、安善寺に帰ったので安善寺で迎える二年ぶりのお正月となりました。

今年の暮れから冬に向けての準備をしていると雪の降らない横浜とではずいぶん違うなあと当たり前ながら改めて実感いたしました。私の中では冬に向けての最初の準備は境内の落ち葉掃きです。これは雪国でな

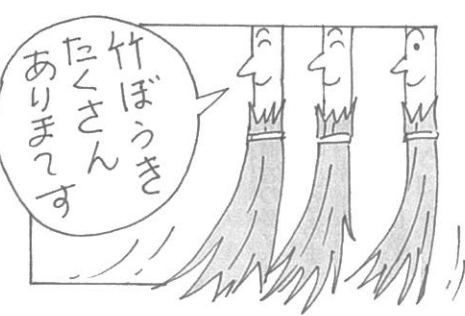


くても行うことですが、雪が降ってしまうと落ち葉掃きはできなくなってしまうので暇な時間を見つけてなるべく早めに掃いてしまわないといけません。しかし、これが厄介なところは、やる気と時間があっても、天気が良くないとなかなか掃くのが難しく、できれば晴れ間が二日ほど続くと有難いのですが、落ち葉の始まる十一月頃になるとお天気の日が少なく、昨年は家族で徐々に掃き、初雪が降った十二月中旬ぎりぎり何とかな掃き終えることが出来ました。

本山では落ち葉掃きでも大勢の修行僧で一斉に行います。掃く面積も安善寺とは比べ物にならないくらい広いですが、一人で安善寺の境内を掃いているときに、ここに修行僧が何人かいればあつという間に掃き終わるのになあとたまに思っ

まいます。でも、掃き掃除というのは明らかにきれいになつていく様子がわかり、終わった後はすがすがしい気持ちになる好きな掃除の一つでもあります。お檀家さんでも竹ぼうきはたくさんあるのでお時間があるときは是非清々しい気分を味わいにおいでください。

そのほか冬支度としては消雪パイプの点検や境内の木々の冬囲い、車のタイヤの交換など、雪国ならではの



の作業があります。月経でお檀家さんのお宅を回っても自然と会話は雪の話題になってきます。特に今年は大雪の予報や噂が多く、そんな話を多くしましたが、感じたのは、雪国に暮らすからにはそれは毎年起こるべくして起こること、話をしている誰もが大変だ、嫌だと言いつつ、覚悟を決め来るべき冬に、雪に対してしっかりと向かい合っている様子ばかりです。雪国では当たり前のことかも知れませんが改めて、雪国に住む人たちは強いなあと感じました。

横濱にいたときは四季を



感じるのは本山の行持で感じるものがほとんどでした。しかし長岡ではやはり落ち葉や雪が四季の変化の一番の目安になります。これから三カ月は雪の降るどんより暗い長岡の冬が続きます。屋根の雪下ろしも容易な作業ではありません。しかし必ずやってくる雪解けの後の春は雪国でなくては経験できない感動を与えてくれます。

今は葉っぱがすべて落ちきり、代わりに雪が積もっている境内の木々ですが、またそこに新芽が息吹く季節を心待ちにしながら久々の雪国を、冬を過ごしていきたいと思えます。

今の顔

飯塚 博樹

私は県の職員で、採用職種は「林業」の技術職です。妙高市(旧新井市)で家が二軒あるのに、仮住まいの県庁勤務が長くなりました。(ここまですを説明すると長くなるので略)

「林業職」というと木を植えて切って売る、いわゆる「なりわい」を県で支援・指導する「いい森林をつくる」業務がメインですが、森林を保全するため、治山ダムや植栽、林道整備による木材生産・森林管理、木材振興、

最近また被害が拡大している松食い虫から松を守る海岸の保安林管理、緑の少年団を中心とした児童・生徒に森林林業教室の開催など多岐にわたる業務を行っています。

また、自然保護、その関連で県内の登山道の整備、国立公園の保全、特に「尾瀬国立公園」は新潟県も関わりが深く、その保全の時にこの季刊

紙の編集委員の加瀬さんと出会いました。

私は、転勤・異動を繰り返しながら、前述した業務のほとんどを担当してきて、それが縁で多くの方々と出会い、お世話になり、今までこの仕事を続けることができた。

皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、今の顔、今私の担当業務を紹介して、皆様から御理解・御協力を賜りたいと思います。



読者の皆さんはすでにございじだと思えますが、平成二十六年六月一日(日)に天皇皇后両陛下をお招きし

「第六十五回全国植樹祭」が長岡市を中心に開催されます。

ここで概要を

●全国植樹祭とは、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春季に開催される国土緑化運動の中心的行事

●会場及び内容

・「ハイブ長岡」では両陛下から樹木の種類のお手播き
・「川口きずな館前広場」では「両陛下から樹木のお手植え

この季刊紙が皆様のお手元に届いた頃の話したいと思います。新潟県では四十二年ぶりに開催される国民

的な式典、残念ながら、興味を持たれた方がいたとしても、参加するための一般公募は終わっています。



写真 中央が飯塚さん

そのため一般の方にこの式典を体感してもらうため、サテライト会場を千秋が原ふるさとの森「緑の広場」とアオーレ長岡に開設し、式典の様子を中継したり、たくさん楽しいイベントを計画しています。また、陽光台では植樹もできるように計画していますので、その頃に県のホームページを確認してお越し願います。(なお、私は川口会場にいて、両陛下からお手植えいただく苗木の管理、土の配合などの業務でお目にかかれませんが...)

私たちが皆様に最も伝えたいことは、この全国植樹祭を契機に、「いい森林をつくる」ため、森林・緑の重要性を理解していただき、地域の木材を積極的に利用することで、元気のない緑がよみがえるようにしたいと考え、微力ながら支援してまいります。

さて、「今の顔」というタイトルで書いてきましたが、これから両陛下をお迎えして全国植樹祭を開催するのにいささか不謹慎ですが、「次の顔」が気になるところです。皇室に関わる業務は、1日のために4年近く準備をする

のですが、終了後は数人を残してすぐ異動となり、気持ちを切り替え新たな業務を行います。

私は、今回の全国植樹祭を開催するにあたり、2年間県庁から長岡、川口に通いましたが、長岡での勤務もなく文化、人間的なつきあいなど、残念ながら「縁」が深くなったとは言えません。

今回この紙面を通じて「縁」のあった長岡の皆様と、「緑」で繋がりが、と強く祈念して、全国植樹祭が開催される半年間、両陛下が気持ちよく御来県していただけるよう全身全霊で準備を進めますので、皆様方からの御協力をお願いいたします。

飯塚さんとお会いしたのは、数年前の「尾瀬サミット」だった。彼は泉田知事のお世話係として随行、知事の篤い信頼を受けて事務処理に携わる姿は、行政マンとしての手腕を感じさせて余りあるものだった。

この度、「第六十五回植樹祭」の窓口担当としてご多忙にも関わらず、原稿依頼を引受けていただき、感謝申し上げます。(編集委員・加瀬)

第5日目 11月13日(水) 〇: カンティ → シガワ → フドウ

旅行は早く後半戦となりました。着陸の中にあるホテルも出発し、本日はシガワを経由してフドウに向かいます。コロンボは政府主催で全このホテルが指定NG

- 9:00 ホテル出発
- 9:23 買い物① 宝石店 ヤーパリ女性何人か? 買い物② 隣りの雑貨店 主に衣類関係 厚手の着物を着ては「サリ」に似た物!
- 11:02 買い物③ 和菓子店「FORTRESS」 ここでは皆ん買物鬼に火が! 持ち帰るものは?
- 12:47 シガワ 寺の子供病院 約80頭の象がいます 子象にミルクをあげる所を 見学しました。 船に3匹の象が 居る...
- 13:25 買い物④ 鳥グッズ屋さん
- 13:50 昼食 @ HOTEL ELEPHANT BAY 象の木の浴びを見ながら食事
- 16:15 カヌー ナツ屋さんにWCタイム
- 17:00 買い物⑤ 玄関マット屋さん
- 19:07 フドウ 街、ブルーウォーターホテル着 海沿いにあるリゾートホテル 残念ながら夕日は見れ ませんでした。明日はゆっくり出発します。



第4日目 11月12日(火) 〇: 和ハル → ダダラ → ヤバー

- シハラ王朝最後の都カンティへ 途中ダンプラ石窟寺院、マツシのスパイスガーデンに
- 8:05 ホテル出発。2日間お世話になりました。
- 9:00 17テイク工場(35来)にてWCタイム
- 9:40 ダンプラ石窟寺院 黄金の仏がお出迎え。急な坂を登り石窟へ 4つある石窟は大変見事なものでした
- 12:00 スパイスガーデン 様々な植物ご案内の後、買物タイム
- 13:15 昼食 @ スパイスガーデン メインはカレーピュッフェ
- 15:07 カンティ マハウエリリホテル着
- 17:00 カンティアンダンス観覧 ヤーパリ代風にアパレル店みたダレスをした後
- 18:15 仏歯寺(タラダ、マリガワ) 仏歯の歯が幸和肉ではあるが 18:30からのア ジャー(仏の料理)に時間を合わせ、仏歯の歯屋 見る事ができました。
- 19:35 夕食 @ ホテルレストラン エグザン屋! ニューの 夕飯 @ 女性用 レストラン。今回は排 水は溝はきれい でした。

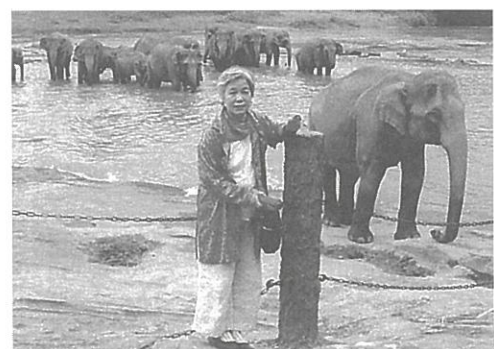
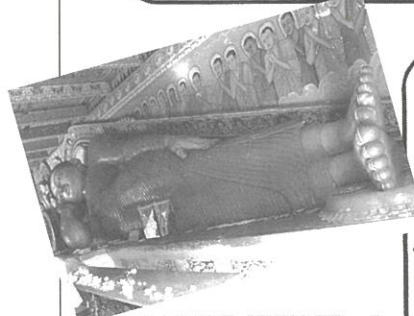


第7日目 11月15日(金) 〇: イルチヨン → 新瀨

- 6:00 インチヨン空港着。寝不足でテリションも 今日は夕方までソウル市内観光です カイドロムンチンです。おしく〜♪
- 8:20 曹溪寺(チョグワ) 韓国最大の仏教宗派曹溪宗の総本山です 朝早くから多くの方がお参りしていました
- 8:50 北木韓屋村 高級官舎が茨山に住んでいた町 映画やドラマ のロケ地としても使われている (冬ソナ)
- 9:25 香瓦台(ガランチエ) 大統領官邸 ホワイトハウスや4ねブルーハウス
- 10:22 仁寺洞(インソドン) 伝統工芸の街並
- 11:13 昼食 @ 金剛山 本日はランチは石焼ビビンバ
- 12:18 買物 @ ロッテ(ロッテ) 免税店! 3フロアに限り数々のブランド店が! 目の毒
- 13:38 南大門(ナムデムン) 手の上に上野のアメ横! ちよと違ふのは声のかけ方 「ニセモノあるよ〜♪」
- 14:55 買物 @ キムチ店 キムチだけではありませんが、美味でした けれどソウルフード! お持ち帰りには せんじました。
- 18:45 (予定) KEJ63便にて新瀨空港へ
- 20:35(予定) 新瀨空港着 安善寺様へ 終了可!

第6日目 11月14日(木) 〇: フドウ → コロンボ → 空港

- スリランカ5日目となり今晩、スリランカとはお別れとなり。 本日コロンボは政府会議があり 閉鎖している道がいくつか あります。今日はお買物の日と存じます。
- 9:35 ホテル出発。ゆっくりの出発で車は多くの花嫁姿が!
- 10:40 買物 @ 雑貨店 PARADISE ROAD 女性にはたまらないお店 余裕の時間は足りず...
- 11:22 買物 @ スーパー APRICO ヤーパリ女性にはたまらないお店 余裕の時間は足りず...
- 12:00 買物 @ 百貨店 ODEL スリランカ唯一のスーパーとこもまわりの品数 も豊富でした。もっと時間があれば...
- 13:05 昼食 @ 喜来登 <中華> 夕々の中華はやはり口に合うので、美味でした。 ここがコロンボ国立博物館の道が一時は閉鎖 鎖になることがわかり、残念ながら見学不可とな りました。また来よう!!
- 14:45 WC休憩 @ マクドナルド 一般の方には高価な物ですが
- 15:35 17ターラナーセカ空港到着 5日間お世話になりました。チンタムとここでお 別れです。いよいよお別れです。
- 19:11 大韓航空 KE474便出発 再びインチヨン空港(ソウル)へ 間もなく林内食。セーフ or ビビンバ。



〜最後に〜 アーユーボクワン!!

皆様7日間の長い旅 インド洋の真珠スリランカの旅はいかがでしたでしょうか。筋肉痛は出ました。 昨年のバリの、ホロアツールの旅に引き続き今回のスリランカでも茨山の霊見があったと思います。 今度旅行を企画して頂いた安善寺様、ご参加して頂いた皆様にはいよいよ感謝申し上げます。 また不都合がございましたら、安善寺様のご旅行で こそ一掃させて頂きたいと思っております。7日間本当に有 難うございました。また会いましょう! 飯泉

P.S. 皆様のタダツマリ(パック)に加えヤエムカサの(パック) 有難うございました。ヨメに土産がございました



安善寺の年末・年始

翠巖龍弘

お正月を迎えるにあたり、十一月頃から少しづつ準備がはじまります。特に十二月は一日から「臘八摂心坐禅」、八日の「釈尊成道会法要」、九日の「二祖大師断臂撰心」と続き、俳句の納会、写経会の納経、第三土曜日には壇信徒の方々も来ていただいて、大掃除をします。沢山ある本堂の香炉の灰をきれいにしたり、お位牌堂のお位牌を

一体ずつおろして一年間のたまった埃をきれいにしますが慣れておられる方々なので手際よく一日で外廻りまできれいにしてくださいませ。少し心配なのは、皆さんが年齢を重ねてこられたので、次の代の方々も加わってくださると良いのですが。

色々行事が重なる十二月ですから、そんな合間をぬって御檀家の皆様へ年回をお知らせするための書き出しもはじまります。大掃除が終わるとお正月

を迎えるための本堂内の荘厳、正月用の掛け軸の取替え等々。押し詰まってきたお年始めの準備、壇信徒の皆様差し上げるお札年始め等々の袋詰め作業が終わると須弥壇上に供えます。

お勤めを済ませ、山内一同過ぎし日の一年間に感謝し、年越しを迎えます。正月は午前四時半起床、曹洞宗の寺院では「三朝祈祷」、正月三日間は朝課のほかに大般若を転読します。



三十一日は二十五ヶ所くらいの仏様に鏡餅(一番大きい鏡餅は一升)、お花を供え、六ヶ所の仏様に霊供膳を供えて本堂と稲荷堂で大晦日の

一日は午前九時頃から午後二時頃まで、本堂で壇信徒の皆様と年賀のご挨拶をし、元旦は午後二時より本堂で理趣分「大般若波羅密多經



卷第五七八」を訓読いたします。

二日は客殿で年賀のご挨拶をいたします。三日が過ぎますと、須弥壇上で三朝祈祷されたお札の入ったお年始の封筒を郵送させていただきます。お札は玄関等にお貼りいただければと思います。

一月の第三日曜日は、総代・世話人の皆様からご出席いただき、壇信徒の皆様代表として「安善寺開山様・歴任大和尚様」の今年最初の月忌として御焼香をして頂き、その後「総代・世話人会

議「新年会」を勤めさせていただきます。これら行事が終わり、安善寺の年末・年始の一連の行事が終わることになります。

お別れ

(平成廿五年九月～十二月末まで)

- 桑原 岩雄様 九月八日寂 長岡市西宮内
- 青柳 ミサ様 九月十六日寂 長岡市稲葉
- 小川 ノブ様 九月二十日寂 新潟市西区

山口 一男様 九月廿一日寂 長岡市新保

小林 恵子様 九月三十日寂 長岡市表町

福田 明子様 十月十四日寂 長岡市東神田

松本 仁様 十月十六日寂 見附市柳橋町

鈴木 俊弘様 十一月十六日寂 長岡市城岡

佐藤 修二様 十一月十九日寂 長岡市北山

五十嵐克己様 十一月廿四日寂 長岡市城内町

水島 ミツ様 十一月廿五日寂 長岡市住吉

結城 衛様 十二月八日寂 長岡市中島

難波 京様 十二月十四日寂 長岡市希望ヶ丘



旬歌 愁灯

[二十九話]

花は咲く

加瀬由紀子

木枯らしが木々を揺さぶり紅葉をはぎ取ってゆく。雪が落ち葉を覆い尽くせば、通りにイルミネーションがともり、街はこころ一番の賑わいを見せる。

届いた新年のカレンダーにふと気が付けば、また一年が過ぎようとしている。

そしてポストには、年賀欠札のハガキも何通か入っている。夢を果たすこともなく、逝ってしまった人たちの冥福を祈ろう。

そういえば、今年よく耳にしたNHKの歌に「花は咲く」があった。震災復興の歌であり、鎮魂の思いもこもっている。歌の終わり頃に「私は何を残しただろう」というフレーズがある。その歌詞は私を痛烈に揺さぶる。

今年は私にとって、大きな転機だった。一年の総括を兼ねて振り返ってみよう。

一つ目は、母の高齢者施設への入所。紹介を受け見

学に行った時に、三人の友人が入所していたことを知り、即入所を決めた母。

家においても、私と孫の加奈子が不在がちなので、あまり興味のないテレビを眺め、窓の外をぼんやり眺める時間が多かった母。

どうなる事かと心配したが、週三回のヘルパーからの入浴介助、その他の日はプールで水中歩行をし、健康維持に努めている。

日々は、食事、消灯と決められた時間に沿って規則正しく過ごしている。同世代の入所者との共同生活は、個室に戻ればプライベートも守られるので、それなりに楽しんでくれるようだ。何より見守ってくれる人がいるのが安心だ。

次が娘・加奈子のケイリン生活に触れない訳にはいまい。

二月に昨年度の最優秀選手賞に選出され、赤坂プリ

ンスホテルでの表彰式と祝賀会があった。故・寛仁親王の第一子女・彬子女王殿下もご臨席され、競輪をこ



加奈子表彰式で橋本聖子国会議員と

よなく愛された故親王殿下ご用達のテイラーから真紅のブレザーも贈呈された。

今まで全く縁のなかった皇族からの、お祝のお言葉にはさすがに緊張を覚えた。因みに、ご入場、ご退席の際は、出席者全員起立して最敬礼するように念を押される。車イスに乗っている母

だけが、でんと構えているのが笑えた。

その加奈子は、人気投票ナンバーワンに選ばれ、九月開催の大きなレースに出場が決まった。ところが、一週間前に交通事故を起こし、辞退せざるを得ない状況になってしまった。全国のファン、関係諸機関から電話が殺到し、ブログは炎上、大パニックになり皆様にはご迷惑をおかけいたしました。改めてお詫び申し上げます。十一月からレースに無事復帰することができ、ともかくも一安心。

さて一昨年訪れたK2を再び、それも五十度の氷の斜面の峠越えをして観たい、という思いから山岳ガイドをお願いし、ロープによる器具の使い方等教えてもらい、卒業試験を五月の連休に剣岳で行ったのは、前々号に書いた。

「これからも一人で登るのか」と彼(エベレスト、マッキンリー、マナスル等多数登山)から聞かれ、「それもカラコルム山脈だね」と応えれば、「行きたい山があったらどこでもおれが連れて行く」



パートナーと共に。顔がわからない所がグー？

く。二人で登ろう」まさに私のこの先を決めた彼の返答だった。

人世半ばを過ぎ、顧みれば今まで何をしてきただろうか。「子どもが生きがい」という生き方は、本人の自由を奪うようで毛頭ないし、親の介護に振り回されてのタイムロスもいやだ。

という訳で残りの日々、それは突然かも、ずっと先かもしれないが、共に理解しあえるパートナー(バツイチ同志です)に巡り合えたことが最大の収穫だった。

幸いにも一番の理解者が双方の娘たちなのも嬉しい。

また大勢の皆様から祝っていただき、ありがとうございます。

一月から三か月を二人でネパール暮らし。山登りと新潟日報からの依頼の原稿「甘口辛口」十回分のパソコン打ち、他の原稿の整理で過ごす予定だ。古着と文具を持参し、西ネパールの子どもたちにプレゼントする用意もできた。

「私は何を残せただろう」私の人生の痕跡づくり、それは新たな旅立ちにかけてみようと思う。

ネパールより皆様の幸多し。新年をお祈りします。

ボブの独り言



幸せを感じます

ボブの独り言

平成二十六年、私ももう十一歳です。人間の年齢にすると何歳になるのでしょうか？ 初代のペコは二十歳の長寿でしたので私もあやかりたいと思っています。副住職が本山から戻って早いもので、もう半年が過ぎました。最初は真人君に「今

度いつかえるの？」なんて言われていました。副住職も何年も出たり入ったりしたのから見ても大変だなーと思いつつ、真面に境内の膨大な落ち葉と向き合ったのはこの秋が初めてだったのではないのでしょうか？ 大銀杏の黄

紅葉を眺め「借景だったら綺麗に感じるんだらうな」とポツリ。毎日、お檀家さんから戻ると一生懸命に落ち葉掃きをしている姿は、私の目から見ても大変だなーと思いつつ、真面に境内の膨大な落ち葉と向き合ったのはこの秋が初めてだったのではないのでしょうか？ 大銀杏の黄

大人のやることを何でも真似する三歳の真人君と一歳の悠真君。時折、仏間から木魚の音と共に、般若心経が聞こえてきます。「門前の小僧習わぬ経を読む」とはよく言ったものです。般若心経はかなり覚えて

一緒に歌おうとすると「バーバ違ふよー」って指摘されていることも。悠真君は、今は電話に興味があり、受話器を左手で持つて耳にあて、右手でメモ用紙に何やら書く真似をしているのです。見ていないよう

お札を述べておられました。渡り初めの状況は、当日は天候が悪かったため、私の記憶にはっきりと残っている秋晴れの日、完成間近のフェニックス大橋、汐海橋梁1.3キロメートルを渡った時の様子をご紹介致します。車道二車線片側一車線と下流側に歩道、完成したばかりの真っ白なコンクリート床板の上を、靴を脱いで渡るうかという気持ちで渡ってきました。中央に来ると、その白い床板に長岡三大学の学生や、市内小中学校の生徒達が記念に描いた絵や文字がありました。今は舗装の下になって見えませんが、いつか見れる時があるのでしょうか。

今年春からは真人君は幼稚園、どんなことが待ち受けているのでしょうか…。ニヤーン

そこから西を向けば、橋の先には西山連峰、東を望めば東山連峰、下流を望めば17キロメートル先には長生橋、全く新しい景色が目に見えてきました。皆様も晴れた日に散歩がてらに歩いて渡ったらいかがでしょうか。先を見て今年も明るく健康やかに生活してゆきましょ



ポツリ。毎日、お檀家さんから戻ると一生懸命に落ち葉掃きをしている姿は、私の目から見ても大変だなーと思いつつ、真面に境内の膨大な落ち葉と向き合ったのはこの秋が初めてだったのではないのでしょうか？ 大銀杏の黄

今年春からは真人君は幼稚園、どんなことが待ち受けているのでしょうか…。ニヤーン

お札を述べておられました。渡り初めの状況は、当日は天候が悪かったため、私の記憶にはっきりと残っている秋晴れの日、完成間近のフェニックス大橋、汐海橋梁1.3キロメートルを渡った時の様子をご紹介致します。車道二車線片側一車線と下流側に歩道、完成したばかりの真っ白なコンクリート床板の上を、靴を脱いで渡るうかという気持ちで渡ってきました。中央に来ると、その白い床板に長岡三大学の学生や、市内小中学校の生徒達が記念に描いた絵や文字がありました。今は舗装の下になって見えませんが、いつか見れる時があるのでしょうか。

お札を述べておられました。渡り初めの状況は、当日は天候が悪かったため、私の記憶にはっきりと残っている秋晴れの日、完成間近のフェニックス大橋、汐海橋梁1.3キロメートルを渡った時の様子をご紹介致します。車道二車線片側一車線と下流側に歩道、完成したばかりの真っ白なコンクリート床板の上を、靴を脱いで渡るうかという気持ちで渡ってきました。中央に来ると、その白い床板に長岡三大学の学生や、市内小中学校の生徒達が記念に描いた絵や文字がありました。今は舗装の下になって見えませんが、いつか見れる時があるのでしょうか。

第六十五号、春号は平成二十六年三月十日(月)発刊予定です

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職が答えします）など。
- 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

お札を述べておられました。渡り初めの状況は、当日は天候が悪かったため、私の記憶にはっきりと残っている秋晴れの日、完成間近のフェニックス大橋、汐海橋梁1.3キロメートルを渡った時の様子をご紹介致します。車道二車線片側一車線と下流側に歩道、完成したばかりの真っ白なコンクリート床板の上を、靴を脱いで渡るうかという気持ちで渡ってきました。中央に来ると、その白い床板に長岡三大学の学生や、市内小中学校の生徒達が記念に描いた絵や文字がありました。今は舗装の下になって見えませんが、いつか見れる時があるのでしょうか。